

vol.52-04 (通算 589号)

2022年7月号

やどかり

2022年7月15日発行
(毎月1回15日発行)1987年12月19日第三種郵便物認可
発行人 公益社団法人やどかりの里
代表者 増田 一世

〒337-0043 さいたま市見沼区中川562

TEL 048-686-0494

FAX 048-747-7030

URL <https://www.yadokarinosato.org/>

定価 50円 (含会費)

2022年度定時総会開催

人権を基本に、やどかりの里の活動の原点を噛みしめて

2022年6月11日、やどかりの里の定時総会が開催され、昨年度同様、4か所の拠点とオンライン参加のハイブリッド形式で行われた。また、総会後には荒田稔さん(元やどかりの里職員)がやどかりの里の草創期の活動と意見を綴った「道を拓く」の出版を記念し、柳義子理事と増田一世代表理事を交えてのミニトークが行われた。

現在、公益社団法人の基盤となる会員数は237人。総会の審議内容は2021年度事業報告と決算報告、理事改選で、いずれの議案も審議の上承認された。

総会は、昨年1年間を振り返り、これからを展望する時間となった。社会保障が後退する中、生活保護基準引き下げ違憲訴訟や優生保護法被害裁判の動きなど人権を守る闘いから学びつつ関わってきた。また、精神科医療の強制入院、社会的入院問題など、未だ抜本的な解決に程遠い精神保健医療政策だが、季刊誌「響き合う街で」(やどかり出版)は、創刊100号の節目に、精神保健福祉のあり方を問う連続企画を組んだ。人権をベースにメンバー、家族、関係者の声を発信し、精神保健福祉のあり方、この国の人権のあり方に一石を投じている。また、1年遅れで50周年感謝の集いが開催でき、記念出版と記念映像を製作し、やどかりの里の築いてきた価値を多くの人と共有することができた。

一方、COVID-19感染拡大の影響は2021年度も続き、登録者や運営面への影響がみられた。2021年度末の登録者数は319人、

COVID-19感染拡大直後の2019年度末から42人減少し、これまで増加傾向にあった登録者数が2年続けて減少する状況となった。新規利用者数55人に対し退所者数は76人と新規利用者を上回り、その内46人は他の事業所などの利用に至っている。また、過去5年間の新規利用者数と退所者の状況では、在宅中心の生活から事業利用になった人は135人だが、100人が退所後に在宅中心の生活に移行している。やどかりの里としてメンバーの退所後の状況を継続して把握し、メンバーの暮らしを支える仕組みを検討する必要があることが報告された。

法人の決算状況では、経常収益が5億4,968万円に対し経常費用は5億6,701万円となっており、登録者の減少やCOVID-19感染予防対策への公的補助金がほとんどなかったこともあり、厳しい財政状況となった。

6月7日に「骨太方針2022」が閣議決定され、防衛力の5年以内の抜本的強化が盛り込まれた。軍事力強化で私たちの暮らしを守ることができるのか、この国の行方を注視しなくてはならない。総会後のミニトークでは、やどかりの里の原点である仲間づくりについて触れ、相手に関心を持ち続けること、諦めずに寄り添っていくことが「とも育ち」につながると語られた。これまで築いてきたやどかりの里の実践を土台にメンバー、職員、家族が知恵を出し合い、ともに活動を前に進める1年にしていく。